



日本歯科色彩学会  
http://www.jacd-dc.jp

# 日本歯科色彩学会 ニュースレター No.51

日本歯科色彩学会事務局 日本大学松戸歯学部保存修復学講座内  
〒271-8587 千葉県松戸市栄町西2丁目870番1  
発行人／池見宅司 TEL&FAX／047-360-9357  
発行日／平成23年6月10日

東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

## 会長挨拶

池見宅司

久光久会長の後任として会長を任じられました。自分自身の性格判断から考えますと、この様な重責を担う事に不向きであると認識しておりますが、お受けした以上は本学会のために一生懸命頑張りたいと考えております。

個人的な内容となり、誠に恐縮ではありますが、私が日本歯科色彩学会に入会した動機から述べさせて頂こうと思います。お誘いがあったことも事実ですが、自分の意思で入会を決めた理由は、大変大袈裟ですが患者さんのための歯科医療とはという事を考えた結果でありました。ある時、上顎側切歯の近心隣接面にレジン充填されている患者さんが、この詰め物の色が違うという事で来院しました。しかし、指摘されなければ判らないような色の違いでした。それまで、修復材料の材料学的性質や予防処置に関して興味を示していた私は、頭を思いっきり叩かれたように感じました。患者さんは我々に何を望んでいるかを理解できた思いでありました。

時まさに生活歯漂白が注目されつつある社会的な背景もあり、審美的修復が脚光を浴びていた頃でもありました。修復材料の物性や接着は、我々にとってまだ

未完成の大変重要な研究テーマで、結果的には患者さんの為になる研究課題であります。患者さんにはそれが見えない。患者さんに見えるのは自分の歯の色であるという、当たり前事に気づいていなかった自分を恥じました。修復材料の物性の完成度が低い時代に、審美性を問題にしても始まりませんが、ほぼ適正を有した材料となったこれからの歯科医療は、視覚的にも満足してもらえぬ歯科医療でなければならないと思いついた次第であります。

入会当初は何を聞いても訳のわからないことだらけでありましたが、徐々に自分の専門や補綴、歯科技工の分野だけでなく、口腔外科、小児、矯正学さらには心理学、診療室の環境、衛生士さんの着衣や化粧に至るまでの幅広い分野において、もっと研究すべきテーマが非常に多く存在していることが分かってきました。そして、本色彩学会には色彩学の専門家の先生方も在籍されており、ご指導とご助言を受けることもできます。是非とも多くの先生方に色彩学に対して興味を持って頂きたく、自分の経験談を挨拶としてご披露したことをお許し頂きたいと思っております。

◎平成23(2011)年4月1日から事務局は下記に移転いたしました◎

**事務局**  
〒271-8587 千葉県松戸市栄町西2-870-1  
日本大学松戸歯学部 保存修復学講座  
中島 光  
TEL／047-360-9360 FAX／047-360-9361  
mail／fujita.kou@nihon-u.ac.jp

**会長**  
住所(左記同)  
池見宅司  
TEL&FAX／047-360-9357  
mail／ikemi.takuji@nihon-u.ac.jp

# 日本歯科色彩学会 第19回学術大会の開催について

大会長／阪 秀樹 実行委員長／元呑昭夫

第19回日本歯科色彩学会総会・学術大会は、「歯科の色彩21世紀の進化を考える」をメインテーマとしました。学際領域にある色彩がどのように具体的な進化を遂げ、変化しているかという視点から考えました。

会員の皆様の研究成果を発表する場として、口頭発表、ポスター発表の他に賛助会員による新材料、機器・術式等のプレゼンテーション発表、また特別講演は広

く市民の皆様にも色彩がもたらす重要な役割などに興味を抱いて頂きたく、公開講座として市民の参加を集う企画をいたしております。

なお、学会員の親睦と旧交を温めて頂くことを目的として、下記の通り懇親会も企画いたしました。何卒、万障お繰り合わせの上、多数ご参加頂きますようご案内申し上げます。

## 記

日 時：平成23年7月23日(土)・24日(日)  
会 場：さいたまソニックシティビル 国際会議室  
〒330-8669  
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

### 内 容：

(特別講演) 7月23日(土)午後3時～  
※市民公開講座 特別講演Ⅰ・Ⅱは参加費無料  
Ⅰ / 「国旗の色彩」国旗で読む世界地図  
講師：吹浦忠正先生  
(21世紀ユーラシア研究所理事長)

Ⅱ / 「認知心理学」色彩と心理  
講師：坂田勝亮先生(女子美術大学教授)  
(一般講演) 7月23日(土)午前9時～  
口頭発表・ポスター発表・  
歯科関係業者 プレゼン発表

### 会 費：

(事前登録：6月30日以前)  
会員／7,000円、非会員／8,000円、学生／500円  
(当日登録)  
会員／10,000円、非会員／10,000円、学生／500円

### ■講習会

日 程：平成23年7月24日(日)午後1時～  
Ⅰ / 必須コース Ⅱ / 応用コース

### ■懇親会 参加費／8,000円

日 時：平成23年7月23日(土)午後6時より  
会 場：天空のジパングー

さいたまソニックシティ14階

申込方法：学会費と共に銀行振込にてお申し込み下さい。

申込〆切：平成23年6月30日(木)

### ■振込先

#### ○口座番号

武蔵野銀行 東大宮支店(普) 1 0 7 4 0 3 0

#### ○口座名

第19回日本歯科色彩学会実行委員長 (もとのみ あきお) 元呑昭夫

#### 第19回大会事務局：

学校法人阪勉学園 埼玉歯科技工士専門学校  
〒337-0051

埼玉県さいたま市見沼区東大宮1-12-35

TEL / 048-685-5211 FAX / 048-685-5239

※大会案内はホームページ上にも掲載されておりますのでご覧下さい  
<http://www.jacd-dc.jp> or <http://www.jacd-dc.jp/gakkai.html>

## 平成22年度「トクヤマ見学会」開催される

平成23年2月18日(金)平成22年度の見学会が開催されました。平日にもかかわらず、各地から31名の先生が参加されました。秋葉原からつくばエクスプレスで45分。研究学園都市と呼ばれるにふさわしく、広大な敷地の中に各社の研究施設が点々と並ぶそのなかにトクヤマつくば研究所がありました。トクヤマデンタルの独創的な製品はこのような環境下で生まれてくるのかと納得がいく、とてもきれいな研究所でした。

研究所見学は、施設内部をここまで見せて大丈夫かと、こちらが心配になるくらい隈なく見せていただき、さらにトクヤマデンタルつくば研究所取締役所長風間秀樹氏より「トクヤマの事業と技術」調光レンズ用フォトクロミック材料の設計と応用」と題してトクヤマの歴史と研究について講演していただきました。見学会の詳細につきましては「歯科の色彩」第17巻1号の記事の永井茂之先生の文章をご覧ください。

講演のなかには、油絵は色あせるがフレスコ画は500年たっても色あせないというお話もありました。フレスコは漆喰の技術であり、昨年APEC、アジア太平洋経済協力会議で展示された千住博先生の壁画にも応用され、その技術を利用した写真用紙がエプソンより近々発表されるとのことでした。そういえば何年前にはエプソン見学会も開催され、そのまた前の花王見学会では、エプソンのプリンタインクを作っているという話を聞き、一昨年新潟での学術大会の特別

講演で、写真撮影のデモをしていただいた鹿野宏氏からは、エイバックの仕事で千住先生と5日間徹夜して仕事をしたということを知っていましたので、世の中狭いものだと思うとともに、学会との縁を感じた次第です。症例写真の経年劣化にいつも頭を痛めていますので、新製品に期待したいところです。

「色の魅力～心身に働きかける色たち～」トータルビューティーカラーアーティスト 須恵ありさ氏の講演では、図らずも突然筆者がカラーコーディネートの実験台に指名となりました。先生は一見理髪店の椅子に座った感じの被験者に、スカーフのような何十枚の色布の束を肩に掛け、何束も矢継ぎ早にめくっていくのです。するとなんていうことでしょうか。化粧をしたわけではないのに、顔の表情がくすんだり、明るくなったり、大きく変化するのです。パーソナルカラーとは何か。古くは歯科でも髪の色、目の色、肌の色に合わせて、人工歯を選ぶバイオブレンドのシステムがあり、当時いまひとつ納得できずにいましたが、今回身をもって感じることができました。

懇親会は加藤喜郎先生の名調子に盛り上がり、楽しい見学会でした。企画に際しては池見宅司先生、ポスターは小暮ミカ先生にご協力を頂きました。最後になりましたが、周到な準備をされ、充実した見学会を開催していただいた代表取締役社長の浦部素直氏、さらに安元和憲氏はじめトクヤマデンタルの皆様には厚く御礼申し上げます。

(見学会委員会)



トクヤマデンタル研究所において



講義会場

## IDS2011 ケルン国際デンタルショーに参加して

東京都開業／中澤 章

さる3月21日から26日まで、ドイツ・ケルンで開催された、2011ケルン国際デンタルショーに行ってきました。世界最大規模を誇るこのデンタルショーは2年に1回。近年どんどん加速している歯科の技術革新をこの目で確認すべく、震災後10日目という時期でしたが、思い切って参加することにしました。原発の影響で、ルフトハンザは成田便を運休しており、関空まで移動してからの旅でした。寒さを心配していましたが、当地の天候は穏やかで東京よりも暖かく、その点はとても助かりました。

事前の予想通りCAD/CAMの展示が多く、著名なインプラントメーカーはもとより、各社がこぞってCAD/CAMシステムのデモンストレーションをしていました。診断から施術、補綴まで、CT、光学印象、CAD/CAM、さらには下顎運動の再現やコンピュータ上でのバーチャルな咬合器機能などトータルなシステムとしての展示が行われ、近未来を予感させる内容でした。

今回はそのなかでも色彩に関係のありそうなものについて概要をレポートします。口腔内カメラは小型化され、液晶モニタに分割表示するなど各社が展示を行っていました。色の再現は今ひとつかなという印象でしたが、中国・韓国勢が積極的で勢いがある感じがしました。日本メーカーではパナソニックの製品がありました。キャノンは日本と異なるツインフラッシュシステムを展示していましたが、現地法人がオリジナルで組んだシステムのようなものでした。色彩計はVITAがブースを大きく裂いて新しいイージーシェードコンパクトのデモをしていました。コンポジットレジンや陶材は、主要な日本メーカーがそれぞれ展示を行い、存在をアピールしていました。CAD/CAMブロックは種類がさらに増え、イボクターは切端色、ボディ色の2色が1本に収まったブロックを展示していました。広すぎてとても3、4日では見切れない展示会場でしたが、補綴・技工の将来を模索するような動きが大変印象的でした。

## 平成22年度日本歯科色彩学会講習会レポート

平成19年度より、日本歯科色彩学会講習会は学術大会時に開催しております。学会出席のついでに参加・受講できるので、とても便利で受講しやすくなったと好評です。本講習会の目的は、会員の色彩学に対する能力の向上を図るとともに、歯科色彩認定士申請あるいは認定士更新の必用条件を満たすことを目的としています。したがって、受講者は会員、非会員を問わず、色彩学に興味を有している人が対象となります

本講習会は、必須コース(講習Aと講習Bよりなる)と応用コースを備えています。本年度は、必須コース(講習B)を「歯科技工物の色再現」と題して本学会理事である埼玉歯科技工専門学校の中山友克先生が担当され、応用コースは、「色彩・分光画像計測とその応用」と題して、あきば伝統医学クリニックの山本智史先生が担当されました。

本年度の受講状況は下記の通りでした。

◆受講者 30名(会員：29名、非会員：1名)

必須B：27名

応用：24名(必須Bと応用の両方受講：20名)

◆必須コースB受講者

認定士資格(有：11名、無：16名)

資格無しを受講者中、資格を取得する予定

(有：10名、無：4名、無回答：2名)

◆応用コース受講者

認定士資格(有：13名、無：11名)

資格無しを受講者中、資格を取得する予定

(有：8名、無：2名、無回答：1名)

今回は、これから認定士資格を取得する予定があると答えた受講者が10名おられました。認定士資格の取

得には、必須コースのAとBを1回ずつ受講する事が必要です。また、他にも必要な条件がいくつかございますので、是非ともそれらをクリアーされ、歯科色彩認定士の資格を取得してください。また、認定士資格の更新条件の一部として、資格保有期間中に応用コースを最低2回受講することが必要です。さらに、歯科色彩認定士資格の取得や更新の為には、学会出席並びに学術集会または刊行物における歯科色彩に関する報告が義務づけられています。この点からも、日本歯科色彩学会大会時に講習会を開催する事は有意義です。

受講後の感想文の回収率は、平成20年度と(平成19年度)は、必須コースが31.6%(40%)、応用コースが37.5%(36.6%)でしたが、今回はコース別の配布が行われておらず、全体で26.7%という低い回答率でした。両コースともに、よかったとの意見が圧倒的に多く、今回の講習会も好評であったと分析しております。

具体的には、

- ・大変わかりやすく勉強になった。
- ・自分の知識を確認すると共に表現の仕方を楽しく見せていただいた。歯学部 학생に講義をする際の参考にさせていただく。質疑応答が大変興味深かった。
- ・理解しやすい内容だった。資料の準備がよく、メモも取りやすかった。

#### [必須コース]

- ・基本的な事だが、明確にする事で、今後の研究のために役立つと思われた。このような原点からの学習は、新たに色彩の研究に参加する人々の役にたつでしょう。
- ・シェードテイキングに関する基礎的な知識・方法を具体的に提示してもらい、勉強になった。

#### [応用コース]

- ・肌の酵素飽和度分布と病変の広がり測定について、大変興味を持ちました。文献等を搜してみたい。先生にもご連絡させていただきたい。
- ・深い話で面白かった。
- ・資料が白黒で印刷されており、しかもサイズが小さくて読みにくく、判読しがたい部分があった。などの意見がよせられた。

さらに、

- ・必須コースあるいは応用コースのどちらかのみ受講したい場合、受講しないコースが行われている間を有効につかえるように、ポスター展示を継続しておくなど、会場で過ごせるようにしたい。
- との意見がよせられましたが、

＜学術大会と講習会は同じ日に行っていますが、別の行事です。現在は、会員が講習会を受講し易くするために、日本歯科色彩学会年次学術大会終了後に大会準備委員会に御協力をお願いして日本歯科色彩学会講習会を開催する形をとっております。

講習会の間も学術大会を継続する事は、大会準備委員のみならず、研究発表者に対しても多大な負担をかける事になってしまいます。数人の方のためにそれだけの負担を担うのは無理であると思えます。

毎年、講習会のメインテーマを変えて内容の濃い講習会を行っております。必須コースと応用コースの両方を受講される事をお勧めいたします。＞

今回の講習会も、大会本部の全面的な御協力の下に無事終了することが出来ました。天笠光雄大会長および道泰之準備委員長はじめ、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野の準備委員会の皆様に、心より感謝申し上げます。また、当日申し込みの対処、受講カード・感想文などの配布・回収・郵送に際し、いつも親切に対処してくださいました秘書の片倉由美子さんにお礼申し上げます。

文責：

平成21・22年度

日本歯科色彩学会講習会委員会 委員長／細矢由美子

お詫び：

本報告文は「ニューズレター」No.50で掲載予定でしたが編集の都合により今号の掲載となりました。ご迷惑をおかけいたしました。

## 名誉会員和久本貞雄先生の逝去を悼む

日本歯科色彩学会監事 昭和大学歯学部歯科保存学教室 教授/久光 久

本学会名誉会員和久本貞雄先生は2011年5月17日未明、東大病院において薬石効なく85歳で永眠されました。葬儀は東京都文京区小石川の伝通院において19日に通夜、20日に告別式が盛大にそして厳かに執り行われました。

ここに先生のご逝去を悼み、心からご冥福をお祈りいたします。

先生は音楽書画など多芸多才で、温厚なうえにも厳格で、常に筋を通し、多くの成果を挙げてこられました。日本歯科色彩研究会の1993年の設立に大いに貢献され、研究会の当初から監事を務められ、その後名誉会員となられております。

特に「歯科の色彩」1997年vol.4④では巻頭言に「白について語る」の意義深い記事を書かれました。

先生は昭和23年東京医学歯学専門学校(現東京医科歯科大学)歯学科をご卒業され、東京医科歯科大学歯科理工学教室に約10年勤務の後、第1 歯科保存(保存修復)

学教室に移籍し約10年在籍。昭和44年に東北大学歯学部第2 歯科保存(保存修復)学教室教授、昭和54年に昭和大学歯学部歯科(保存修復)学第2 講座教授。昭和58年昭和大学歯科病院長、昭和60年昭和大学歯学部長、平成2年天津医科大学名誉教授。そして平成3年に定年でご退職、昭和大学名誉教授。その後、昭和医療技術専門学校歯科衛生士科副校長として歯科衛生士の教育、養成に尽力されました。昭和40年と49年にデンマーク王立歯科大学に留学、ヨルゲンセン教授と親交が厚く多く、小生も含め多くの若手歯学研究者をヨルゲンセン教授のもとに留学派遣されました。日本の歯科界に対してなされた多大なご貢献に対して敬意を表しますとともに、これまで昭和大学歯学部歯科保存学教室の教室員および多くのOB、OGが賜ったご薫陶に心から感謝の気持ちを込めて追悼の言葉とさせていただきます。

### 編集後記

3月11日14時46分に三陸沖を震源地とする日本観測史上最大のM9.0の巨大地震(東北地方太平洋沖地震)が発生しました。宮城県北部で最大震度7を観測した他、東北地方から関東地方の太平洋沿岸では巨大な津波が押し寄せ、大規模な火災、多発する大きな余震、液状化現象、地盤沈下などにより各種ライフラインが切断され、さらに原発事故へと続き、風評被害、経済の停滞まで起こり、甚大な被害をもたらしました。後に“東日本大震災”と命名されたこの災害で、記事を書いた時点で亡くなられた方・行方不明者25,000余人、避難者数167,000余人となっています。

会員の皆様、ご無事でいらっしゃいますでしょうか？被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

震災発生後、次第に状況がわかるにつれて、その被害の大きさに心を痛めた方が多いのではないかと思います。報道回復後、まず目に飛び込んできたのは、真っ黒な津波の映像とそれによる瓦礫の山…。土、泥、砂、木材、住居廃材などの土色でした。想定外…とはいえ、ショッキングな映像でした。

震災直後は呆然と立ち尽くす姿が印象的でしたが、大打撃に打ちのめされ苦難に直面しながらも再び立ち上がり復興への意欲を燃やす方々、そしてそれを必死に支援しようとする方々などの力強い波が沸き起こりました。海外からも評価される日本民族の強大なエネ

ルギーと民族性、団結力。日本全国のみならず、全世界のさまざまな地域からの支援の手。自分のできることが被災者含め、皆にパワーを与えられるのではないのか？という意識。どれもこれも素晴らしいものです。

そんな中で季節は着実に廻り、瓦礫の土色の風景から桜をはじめとするピンクや白や黄色、藤色など様々な春の花々の織りなす色彩が、どれだけ人々の心にやすらぎと勇気、パワーを与えたことでしょうか。今、弘前では桜が満開なようです。そしてこれに続く新緑が、さらなるパワーを与えることでしょうか。それらの色がまさに“復興の色”のような気がいたします。

原発事故においては収束に向けた工程が示されたものの未だ予断を許さない状況が続いております。また今後も広範囲での地震に対する警戒が必要なようです。医療関係も、今回の震災により、クラウド化が急速に進むかもしれません。大きな変革が求められるかもしれません。震災からの復興を心からお祈りするとともに、支援も含め、我々も頑張っていきましょう。

話は変わりますが、学会長が、久光先生から池見先生に引き継がれました。

我々も一丸となって邁進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお祈り申し上げます。

(齊藤 誠)